

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1272700624		
法人名	医療法人社団 創造会		
事業所名	グループホーム ヴィスタリオ		
所在地	千葉県我孫子市柴崎121-3 (電 話) 04-7181-3900		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年 3月24日	評価確定日	平成21年4月13日

【情報提供票より】(平成21年 2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 7 人, 非常勤 13 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有() 円 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 300,000 円 無()	有りの場合 償却の有無	有() 無()
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低 72 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平和台病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い駐車場を有する「グループホーム ヴィスタリオ」は、エレベーターを備えた2階建ての建物である。施設内はバリアフリーでゆったりとしたスペースが確保され、沢山の草花が飾られて季節感のある明るい雰囲気となっている。併設のデイサービス施設と連携し、合同のレクリエーションや行事が行われていると共に、世代間交流も積極的に行われ活気のある生活を支援している。職員は、入居者一人ひとりに合わせた柔軟な対応で「居心地の良い場」の提供に努め、笑顔で楽しく安心した生活が送れるように温かい支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価においての指摘事項は挙がらなかったが、職員会議や運営推進会議を活用し、独自に反省点を挙げ、改善をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価においては、職員全員で話し合い、管理者が意見をまとめて作成している。職員は外部評価の意義を理解しており、気付きを大切にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長・家族会会長・法人職員・施設職員を構成員として、3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や質疑応答を行ない、施設の理解促進を図っていると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、会議の内容の充実化や出席率向上の工夫を検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情・相談窓口が設置されていると共に、面会時・電話時・家族会・運営推進会議等にて意見・要望の確認を行っている。挙げた意見・要望等においては、職員会議にて周知・検討している。また、必要に応じて医師・看護師等に相談し、適切な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣住民とは散歩時等に挨拶を交わす関係が築かれていると共に、お祭り等の地域行事に積極的に参加し、地域との交流を図っている。併設のデイサービスのレクリエーションや行事に参加し、外部との交流を図っている。幼稚園児の訪問・小中学生の職場体験受け入れ・学校行事への参加等を行い、世代間交流も行っている。また、法人にて講習会の開催・介護相談等を実施し、地域貢献も行なっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した開放的な施設を目標に掲げ、「いつも笑顔で楽しく活気ある自由なその人らしい生活、安心と安らぎのある生活」を主眼とした独自の理念を作り上げ、一人ひとりに合わせた柔軟なサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送りの時に職員に対して、理念の確認と実践に向けた取り組みを話し合っている。職員全員が理念を意識しながら入居者が安心して楽しい生活が送れるよう温かい支援を行なっている。また、事業所内に理念を掲示すると共に、施設新聞を配布し、家族等の来訪者に理念を周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは散歩時等に挨拶を交わす関係が築かれていると共に、お祭り等の地域行事に積極的に参加し、地域との交流を図っている。併設のデイサービスのレクリエーションや行事に参加し、外部との交流を図っている。幼稚園児の訪問・小中学生の職場体験受け入れ・学校行事への参加等を行い、世代間交流も行っている。また、法人にて講習会の開催・介護相談等を実施し、地域貢献も行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価においての指摘事項は挙がらなかったが、職員会議や運営推進会議を活用し、独自に反省点を挙げ、改善をしている。自己評価においては、職員全員で話し合い、管理者が意見をまとめて作成している。職員は外部評価の意義を理解しており、気付きを大切にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長・家族会会長・法人職員・施設職員を構成員として、3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や質疑応答を行ない、施設の理解促進を図っていると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、会議の内容の充実化や出席率向上の工夫を検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務全般に関する相談や連絡を随時行なっていると共に、運営推進会議等を通じて定期的に意見・情報交換を行い、市との連携を図っている。市主催の介護サービス事業者会議や勉強会に積極的に参加している。また、市の依頼を受けて地域住民対象の講習会へ講師の派遣を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や手紙・電話にて、入居者の生活状況等の報告を行っている。また、定期的に施設新聞を発行し、行事案内や施設での様子を写真入りで伝えている。生活状況に変化があった場合には、随時電話にて連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口が設置されていると共に、面会時・電話時・家族会・運営推進会議等にて意見・要望の確認を行っている。挙げた意見・要望等においては、職員会議にて周知・検討している。また、必要に応じて医師・看護師等に相談し、適切な対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所、人材は安定しているが、職員の異動・入退職においては、家族の面会時・親睦会・施設新聞等にて紹介や報告を行なっている。入職があった場合には、慣れた職員と一緒に業務を行い、入居者と出来るだけ早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。また、職員の相談窓口を設置すると共に、人事考課制度等を設けており、働きやすい職場作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には補助支援制度を設け、積極的な参加を促している。研修参加後は、会議にて報告会を行い、情報の共有を図っている。法人内・施設内にて内部研修が定期的に行なわれており、職員のスキルアップを図っている。また、人事考課制度を設けており、年2回の面接や自己評価にて職員の能力・思いを把握しており、適切な人材育成が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や県のグループホーム連絡会に加入しており、連絡会にて意見・情報交換等を行い、サービスの質の向上に活用している。法人内の他施設との交流会や合同行事が実施され、職員・入居者同士の交流が図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、お茶飲みや食事等に参加してもらい、施設の雰囲気や方針を理解してから入居を勧めている。入居後は、職員が手厚く寄り添い、他の入居者とコミュニケーションが取れるよう配慮すると共に、席順等を工夫し、出来るだけ早く施設に馴染み、安心した生活が送れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者に対して常に尊敬の念を持ち、礼儀や気遣い等を学ぶと共に、入居者からの労い・感謝の言葉が、職員のやりがいや癒しとなっており、共に支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から意向や生活暦等を確認し、記録している。入居後は日々の観察や会話の中から本人の意向の把握に努め、気付きノート・経過記録・業務日誌等に記録しており、職員全員が情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は、本人・家族の意向や生活暦等を踏まえて、計画作成担当者が暫定計画を作成している。1ヵ月後に会議を開き、職員全員が意見・情報を出し合い、介護計画を作成している。計画作成後は、職員全員へ周知すると共に、家族に説明し、了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の評価・目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行なっている。また、生活状況に変化があった場合には随時見直しを行なっている。見直しにおいては、職員会議にて話し合い、計画作成担当者が作成している。また、家族の意見・要望においては、面会時等を通じて随時確認を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて、買い物や外出等の柔軟な支援を行っている。また、訪問理美容を実施しており、身だしなみの支援も行なわれている。併設のデイサービスと連携を図り、レクリエーション・音楽療法・合同行事等を実施し、楽しみを支援していると共に、幼稚園児の来訪・小中学生の職場体験受け入れが実施されており、世代間交流が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。また、定期的に内科医・歯科医・薬剤師が訪問しており、適切な医療支援が行なわれていると共に、週2回の訪問看護により、適切な健康管理が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における施設の方針を明文化しており、契約時に家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には、協力病院や法人内施設と連携を図り、安心した終末期を迎えられるよう体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類については、事務所にて保管し、個人情報の保護を図っている。法人内で接遇マナー研修を実施し、職員全員に指導を徹底している。職員は挨拶や身だしなみに気を付けると共に、その人に合った言葉遣いやさりげない介護の実践に取り組み、プライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に取り決めは無く、本人のペースや希望に合わせて自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、さりげない声掛けや表情から本人の希望を汲み取るよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて、調理・準備・片付け等を共同で行っている。配食サービスを利用し、献立の作成や食材の配送を依頼しているが、週2日を自由メニューの日とし、献立作成や買物を入居者と共同で行い、入居者の希望に合わせた食事の提供をしている。また、外食会の実施や行事にてケーキ等の特別食を提供すると共に、ウッドデッキでのお茶飲みや食事会等を実施して、食の楽しみを広げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施されており、入居者の希望に応じて時間や回数等、柔軟に対応している。浴室は十分な介助スペースが確保されていると共に、暖房の設置され、脱衣所から直接トイレに行ける設計となっており、安全性・利便性に優れている。入浴の拒否があった場合は、無理強いせずに声掛けの工夫や清拭への変更等で適切な対応を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。併設のデイサービスで行なわれる音楽療法等のレクリエーションに参加し、楽しみを支援していると共に、活け花・編み物等、入居者の得意分野を活かした趣味活動を支援している。また、併設施設との合同行事に参加し、地域の方々や児童等との交流を図っており、入居者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩・買物・ドライブ等の外出支援を行っていると共に、ウッドデッキでの日光浴やお茶飲み等を実施し、気軽に外の空気を楽しめるよう支援している。また、定期的に外出会や外食会を実施して戸外での楽しみを広げている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全面に配慮して玄関の施錠を行なっているが、希望に応じて開錠し、入居者の自由を束縛しないよう努めている。また、ユニット間や併設デイサービスへの行き来は自由となっている。居室には鍵が設置され、入居者のプライバシーが確保されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設のデイサービス施設と共同で、年2回の消防避難訓練を実施している。緊急連絡網等を事務所に掲示していると共に、救命救急講習を実施し、緊急時に備えている。施設では備蓄を行い、災害時における対策を構築している。また、運営推進会議を通じて、災害時における地域の協力を呼びかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養バランスに配慮した献立が作成されていると共に、入居者の嗜好や能力に合わせた食事提供がなされている。食事・水分の摂取量を記録しており、摂取量が不足している場合には、好みのものや栄養補助食品を提供し、栄養の確保に努めている。また、必要に応じて法人内の栄養士への相談を行ない、適切な栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は全面バリアフリーとなっており、玄関・廊下・トイレ等十分な介助スペースが確保されている。共有スペースは床暖房・エアコン等が設置され、適切な空調管理がなされていると共に、ソファ・テーブル・掘りごたつが設置され、入居者が思い思いにくつろげる空間となっている。施設内は日当たりが良く、季節の草花が沢山飾られて明るい雰囲気作りがなされている。また、ウッドデッキにはテーブルと椅子が設置され、日光浴やお茶飲みを楽しめる様になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持込む事が可能となっていると共に、希望により畳を敷く事も可能となっており、安心して居心地良く過ごせるように配慮されている。全居室に湿度温度計・エアコン・換気扇が設置され、職員によって適切な空調管理が行われている。		